

森林応用研究 (Applied Forest Science) 和文原稿執筆要領

(平成 15 年 11 月 7 日)
(平成 22 年 10 月 22 日改正)

1. 論文の構成

論文は原則として規定の書式(『森林応用研究』原稿作成例)によるすべてを含む刷り上がり 12 頁以内とし、表題名、著者名、所属機関名、要旨、キーワード、本文、注、引用文献から構成される。論文には和文の要旨(500 字以内)、キーワード(5 語以内)とともに、英文の要旨(250 語以内)、キーワード(5 語以内)を記載しなければならない。

また、英文の著者名、表題名は英文要旨の冒頭に記載する。和文の所属機関名及び住所は脚注に記載し、その後に括弧書で英文の所属機関名及び住所を記載する。

2. 総説の構成

総説は原則として、規定の書式によるすべてを含む刷り上がり 12 頁以内とし、執筆要領は論文に準ずる。

ただし、和文要旨、日本語キーワード、英文要旨、英語キーワードを省略することができる。これらを省略するときは、英文の表題名、著者名と、和文の所属機関名と住所を脚注に記載する。また、英文の所属機関名及び住所は、和文の所属機関名及び住所の後にまとめて括弧書で記載する。

3. 短報、資料・技術ノート、その他の構成

短報、資料・技術ノート及びその他は原則として、規定の書式によるすべてを含む刷り上がり 8 頁以内とし、執筆要領は論文に準じる。

ただし、和文要旨、日本語キーワード、英文要旨、英語キーワードを省略することができる。これらを省略するときは、英文の表題名、著者名と、和文の所属機関名と住所を脚注に記載する。また、英文の所属機関名及び住所は、和文の所属機関名及び住所の後にまとめて括弧書で記載する。

4. 表題名

原稿には表題名、著者名を和文で記載する。連報の場合、第 1 報、第 2 報などの表示は、主題の後に、I., II. などとして示し、副題をつける。

5. 見出し

本文の大見出しには、I はじめに、II 材料と方法、III 結果、IV 考察、などのように、ローマ数字をつけ、文章は行を変えて書き始める。中見出しは 1 字分下げて 1, 2, 3, の算用数字をつけ、1 字あけて本文をつづける。

6. 原稿の書き方

原稿は和文とし、現代かなづかい、常用漢字(学術用語以外)を用いる。原稿は原則としてワードプロセッサを用い、PDF 形式で保存した電子ファイルを提出する。審査終了後、編集委員会が指定した形式の電子ファイルを提出する。

動植物の和名はカタカナ書きとし、学名はイタリック体とする。欧語の人名は、スモールキャピタルとしない。

数字は算用数字を用い、単位は略語(kg, mm など)を用いて記述する。

7. 図・表

図・表は別紙とし、上端に著者名、図・表の通し番号(図-1, 表-1 など)をつける。表の題及び説明は、表の上に表-1 などとし、1 字分空けて記載する。図の題及び説明は、図の下に図-1 などとし、1 字分空けて記載する。

論文の図・表の題名及び図・表中の説明は、必ず和文、英文を併記する。なお、論文以外については、英文併記を省略することができる。

林政及び経営部門の論文に関しては、図・表中の説明の英文併記を省略することができる。ただし、図・表の題名の英文併記は省略することができない。

投稿時には PDF 形式で保存した電子ファイルを提出する。審査終了後、編集委員会が指定した形式の電子ファイルを提出する。

図のトレース、文字の貼りこみ等の依頼は受け付けない。

8. 写真

写真の仕上がりは原則として白黒となるので白黒写真に変換した画像ファイルを提出する。投稿時には PDF 形式で保存した電子ファイルを提出する。審査終了後、編集委員会が指定した形式の電子ファイルを提出する。写真の表題等の書き方は図と同様とする。とくにカラー写真を希望する場合は投稿時に申し出るとともに、カラー印刷費用は著者が実費負担する。

9. 注

注は本文の最後（引用文献の直前）に一括して記す。注は片括弧を付けた番号で区分し、その番号は原稿全体の通し番号とする。本文中では、「依田¹⁾は、」、「——が示されている¹⁾」のように記す。注の文章は、片括弧を付けた注番号で始める。

10. 引用文献

引用文献は著者名のアルファベット順に下記のように記載する。

（雑誌）

Aerts, R. and Chapin, F. S. III. (2000) The mineral nutrition of wild plants revisited: a re-evaluation of processes and patterns. *Adv. Ecol. Res.* 30: 1–67.

西山嘉寛・吉岡正見（1996）山火事跡地の復旧に関する調査—被災1年目の玉野試験区の状況—。岡林試研報 13: 54–92.

Tilman, D., Knops, J., Wedin, D., Reich, P., Ritchie, M. and Siemann, E. (1997) The influence of functional diversity and composition on ecosystem processes. *Science* 277: 1300–1302.

上田明良・小林正秀・野崎愛（2001）カシノナガキクイムシの寄主からの臭いに対する反応の予備調査。森林応用研究 10(2): 111–116.

（書籍）

Bormann, F. H. and Likens, G. E. (1979) *Pattern and process in a forested ecosystem*. 253pp. Springer-Verlag, New York.

片桐成夫（1989）物質の集積・分解の場としての土壌。森林生態学（堤利夫編），pp.96–111. 朝倉書店，東京。

Vitousek, P. M. (1985) Community turnover and ecosystem nutrient dynamics. *The ecology of natural disturbance and patch dynamics* (eds. S. T. A. Pickett and P. S. White), pp.325–333. Academic Press, San Diego.

依田恭二（1971）森林の生態学。331pp. 築地書館，東京。

本文中では、「——が報告されている（上田ら 2001）。」、「西山・吉岡（1996）は山火事跡地の——」、「——に生物多様性が影響する（Tilman *et al.* 1997）。」、「Aerts and Chapin (2000) は樹木の養分利用効率を——」のように引用する。

11. 投稿連絡票

投稿に際しては、投稿連絡票に必要事項を記入して原稿と同時に添付して提出する。なお、所属機関、住所などに変更があった場合は、速やかに編集事務局へ連絡する。